

解答

一

- 問一 (a) 窓 (b) 印刷 (c) 東 (d) 公衆 (e) けはい
問二 I エ II エ
問三 I 感情的にふるまうことなく、きびしい現実には立ちむかえる自分。 II 河井に泣きことを云うのではなく、叔父に直接抗議すること。
問四 駅まえでのチラシ配りや、郵便受けへの投げこみは、ぼくがやるということ。
問五 ア
問六 かっこうつけず、身近になった父が、ありのままの姿を示してくれるから。
問七 ひなたの匂い。／父への不満やわだかまりが融けてゆくこと。

二

- 問一 たいていのことは無条件によいわけではなく、よいことには悪いことがあり、また人間は他人の理屈では納得しないという考えから。
問二 自分の才能にブレーキをかける
問三 自分の身にそなわったふうにしか、生きられないのではないかと思っているから。
問四 ウ
問五 努力次第で、人間はいかようにも変革可能、という進歩の思想と異なり、生まれつき身にそなわったふうにしか、生きられないのではないかと思うこと。
問六 自分のよさを伸ばすことにならず、自分は自分であって他人の理想には到達できないから。
問七 イヤなところがあるがおもしろいという点。
問八 ア× イ× ウ○ エ× オ○
問九 エ

解説

一

- 問四 傍線②を含む一文にある「それを云わせたのだ。」に着目します。直前の音和の発言に「駅まえでのチラシ配りや、郵便受けへの投げこみなら、ぼくにもできる。……だから、ぼくがやると云おうとしたんだ。」とあるので、この部分を問題文の指示に従ってまとめます。
問六 後に続く部分で、傍線④のように思う理由を述べています。いまのおとうさんに対する音和の思いが表れている箇所をまとめます。
問七 傍線⑤の前後にある会話から、ひなたの匂いがいいものだと思っていることがわかります。最後の段落には「彼が味わっていたのは、ひなたの匂いばかりではなかった。」とあるので、「意識のなかで」から始まる一文の内容を二つ目に書き表します。

二

- 問五 傍線⑤、⑥を含む段落の内容を二つにわけて捉えます。「自分の身にそなわったふうにしか、生きられない」、「生まれつき」という宿命論と、「努力次第で、人間はいかようにも変革可能」という進歩の思想を説明します。
問七 本文の後半「才能や容姿だって、」から最後にかけて着目し答えます。「日本の昔の芸人などで」から始まる一文は選択肢ウの内容と一致し、選択肢オの内容は最終段落に述べられています。その他の選択肢は筆者の考えと異なっています。